

「手取川上流崩壊地に関する技術検討会」の概要について

平成29年2月7日

委員から以下のような意見がありました。

<これまでの対策の評価>

- ・手取川の土砂移動、濁度の変化については、さらに詳細な検討が必要であるが、これまでのデータに基づけば斜面の移動と土砂流出量は減少してきていると考えられる。
- ・現地調査の結果、崩壊斜面上部において植生回復の兆しが見られたことも踏まえ、当該崩壊地における対策は、緑化工を主体としたものを継続することが適当である。

<今後の対策の方向性>

- ・崩壊地における立地環境を見極めながら、5年程度の期間をもって緑化対策を講じていくことが必要である。その際には、近隣の別当谷崩壊地における植生回復の状況も参考とし、将来的な姿をイメージして進めることが必要である。
- ・対策の実施に当たっては、種子等の散布により植生回復を進める箇所、自然回復を促す箇所に分け、メリハリをつけて集中的な対策を行っていくことが必要である。その際には、レーザーデータや無人航空機の画像等も活用し、現地をより詳細に区分することが有効と思われる。
- ・崩壊地を全面的に緑化することは非常に困難であるが、困難な場所においても、新たな技術開発により緑化の可能性を検討する必要がある。また、植生回復を促すための土壌づくりにも取り組むことが必要である。
- ・現地に直接アクセスし、工事の起点となるベースを設置することは非常に困難であると思われるが、対策の進捗状況については、現地の情報収集による施工効果のモニタリングを行うことが必要である。
- ・周辺の地域で同様な現象が発生することも想定して、流域全体で濁水対応を検討していくなど、引き続き関係機関との連携が重要である。

(以 上)